# 近代百物語

五

2296

一九一

共四
千五百廿二号

## 巡りひゝ車の軫

不義不忠不孝大悪の報まぬく嫁そしめくひ入湯せんそくのついでよ祈んぶのだいのくるごととうれべ柱をも冠もせうめんしてぐらくといふ面へすぐど仏の美金の釜ぬうてうこのことと存仏くく石像のかんじをくて耳義ことの仏えくくひ黒ことえ人浪風をこうさむえくくへ暖気のことを笑番くんごて花ごうとそぐるこの面へ由ふとへおりひもこぬるやそう一十人ぐ十人ぐぐ祈んぬつぎへりくを指ふて悪の上めうするの

第一我こゝろ人とちがひてへこの右京れんもかへつて
こゝろ人と悪口いつぎうひぎくちばすひこゝろをけく
こゝろくの病わづらおそ待こゝろものへうす一今へむう一病中
の國と山坂をこんこうといふ人あり家宮さうへてかのうと
うゝ男れうへうう一が若へこうへ仏まのうぜのまるおく
け家の内宝うへうへて三ひめ一初産せう一が悪血ノ不
ざるうやあうへう深いこゝて起居もうゝ休べこんこう乳乃
ぐうぐうと出中の医をいつよおうだをまでも男合
せ名ある医者へむうゝも殊さぞ金銀れあうてまうせて
こゝとう仏めちひあるひへ灸治有るれ入湯行りやくさん
やくこゝうへ食あ仏さぞりゝさぞ六ひうろうあかと
あゝゆう表生すれぞもそのうゝはうこうかてい家
内もおさまゝざれべうかまゝ九女をかへ妻こんこうを
世労れまうるひいはとえづけく万ゆれ出一ツ亜内家
ぐうりとつゝあゝ一生をつ死る利にりのちゝゝおを
こうけ乳仏つけく亡れれこゝもお内まぐぜん寺めく
わどれよりの出入れ人くうぐいもいはうゝでいへ
うやまよゝそいつく養仏法ぐうくこん病気うゝゝお
内家の生てあゝ仏が乳がでうう灸命うゝ
そてもれ男所時もうゝまよすぞ西れべあゝへ我なゝ

うるものとほどなひうちわすれゆめごとにおもひて
おこそのゐのうへのゐのおもひかへ蛍火のおのれと煙
を神のさゝやきと病とうれへいはねばおどろき祓令
あるその夜ゝ死てハ行の祓ひせあるんいざやゐ
とうろ仕やれなどもあるとといろ〳〵と薬
ゝつけはらゝてうてぬさうちむけくとおこそ
あるうれや我大ぎんも本銭せも出良布ぬさうう
うちも祓のちうにさゞくとあるをうれまき祓1
うろいのゝでいうてうろれうんやと内裏の婆
と猿ようれ祓やとゝあしおさ勧くけうひう



きびおこまれさうさはゝ猿ようさげかうハうろ
むどうとう訂おつうろく咲ようちう大ぎんお銭うさ
ゝ先のくと法気ふ歌の女ゐ祓んまゝ百日てうといの
ろゝ内裏ゐうんのつうろうやうろひくまおゝ病
へて経ゝむうゝうけるあゝぬゝさや七日ゝあれる
夜ゝりいはゞぬゝさゝ一百れうちゝ内裏のすゞをつく
とあるれうろ祓さ乱をゝ立てをおのれゝ学
のあるのうたれバうをゝくゝうはおゝをゝなど祓ゝいい
のうの仏ゐをのゝあゝぞようくるひどゝしいおろ
そふゝまでをくゝゝおゝひうゝんおゝひそれと

なおしぬつけとひつけばまねぎもんもゆげんも
又驚すくそうごかバそよ外へと騒動しのう
てさべたすけてなべらくと注さけび家内大人
おどろ出て養子一足つかう正気外つけとありおて
せバやくと周外ひくれのあとさをとさそて養
ゆくありかとうくれもせぬ養れさ海ひのごのは
れてかこれと養子おそれまし皆様そと笑
ひこはさくしサアおてやそくあそ父とまさしう
くぬこんれうち行こやんくよめをすこもはてる
こがまこと聖の夜もおの養つくなごた廿日あまり



毎夜のせうたなあ一外乞れバ疲のおくまあとこ
うて遣がこあくれ血をこをるかくてこいのちも
あやしとつて面外祈ひ当こくを経養れあそりせん
こうく旦那寺の和尚外まるさそびうひくなごご
とうご姑後のおもむたさんげ外すれバ和尚ハくりく
ゆそけうくもあくふめくれこうるこ悪強こ塩
せんるめでくかけてろるごいさうくひて油ひ
そもしくんとすくでお仏拠こうひのこ着
門取れお経有るやしお香奠外そうて法るお外
せバ陰碍たちはちりぞそろこや病去のごんろく

すしくうてゐるもあるもの
初夜(しょや)の鐘(かね)を表(おもて)へ聞(きこ)へるとさけぶ勢(いきほひ)母(はゝ)をあひてそこ
ゐたくそうなあるくなどをおこせばちごくあるく
ゝゞへたび今(いま)ちごくゐごろひうちつゝもゐ
ゐるもの車(くるま)のおとをきゝわけゐるにぞあるゝぬぎやと
乃(すな)ち車(くるま)出(いで)そろ〳〵牛(うし)ひる所(ところ)の鬼(おに)大(だい)ぶあげ
うんぢごく飛廣大(とびひろだい)うれしひのあの氏車(うしくるま)そばまでまとと
つゝこのせ高(たか)そこへ遁(にげ)そゐるをかゞ俯(うつむ)きげき風
うをおこをを猛火(もうくわ)さんまりあげを背(せな)もそぐゐなそ
くろ〳〵さうなとさけぶとおりひしぐお世話(せわ)でうく〳〵びく

ゆうまへといふ
ゐまゐ有(あ)べき所(ところ)
ゐる我(わが)ゐろうう
むろうくろる
一(いち)ゐ服(ふく)おさく
ざれそこ
花(はな)乱(らん)ついとと
ゐるく
ゐるべ

ゝゝ人をどやの車にまでのせられてゞゝおつ
我身ハうへくまでおりさ罪科も
るゝれべやるもハゝゝんやうもやさてせん
父母とあとよ
ぜう娘のせや
いふうちて面をやたんまの
とゝゝ眼といふにんとをうに
くひとあゝくとまたをにを人のをゝぞ
ゝゝをゝ

猫人と化してるた事

奥州志のぶの石のゆかりなれ人のうく物語
をわうちに玉簾玉ちといへる白士あり武勇たくましく
くをこんかて人にあらそふものこゝろ剛にして名を絶ものもち
まるうこと覚言をある日勧とくする旬おこそて乃ちにそる
ふひと摑ニまれて汗ぶれめくゆ幸活と独たるとも
のでーる旬おどろ死誰うる死盗まて校出ろやと
うさびて聖勧る死乃又汗ーてあへぐゆきのよ
でーあゆく思ひて校をわうにふて知そうみそと
得ニ旬と旬を死る思孫こ厩の内にまうみへおどう
て俄ニ口死男れうちふ化ー衣冠ろふしるよ



うう死ぶりて物の門をゆぎ言ー鞭とのめくるよ
あつれをおどろめて門とそ口こてもろあのめさにおえで
うゆをるそろるうれ乃ー鞭死ここえ人おどろくく
りの猫とう学外でーる旬人る活ことおどう活さ
ゆーてえめる校も得ひるよ歩り出るあこにさぎひ
返て約雪ゆーうて是めう死もひゆくよおうろ乃
右さ善のまへかしてる外是知ーいつくへ約するやん
乃へどせん方ふくを校いうねえあけの校い青まり件
の善ふよいう辻堂ん天井ようくれて得ニ夜まを
うにうりて思衣の装来してるよ歩りまるるうり

ちりうる紙辻堂などもらひつゐて墓のこゐ塔などのけて穴の中に入ゐ又中より教人ありてわらひ袋を空へうり投くして穴うり出てうる教人おうてゐる中に年老ゐるものとおぼくて立ちつゐ一本の名札ばいづくゐ立ちしや黒袴こゐ人て脱ゐ名の抱桶の下か納立うり養ゐ申れとゐうぐつゐみのうをみうれうまで我ゐ立教さんぬゐ出生せーおされゐ名札つけさらに札ゐちやくちうをべーうれとうをうまうれとゐうくわうれうかあうれうたおうんでる個いあゐ人をひうーとゐそうにゐ人ゐ去うう立ちつおとろき黒袴このゐんーてあうう紙見ゐまーまだうて去かとうーらにうつつけ名の抱桶おうくうとさうせだうさうて穴の中ゐ一冊の書あう奥ゐ男女の名とのせうおされゐまれてわうの一日うういまうえとつけさう紙りつくのせどやうて猫と引出ー投ゐいて新教ーあ中の侍教十人とうれて墓石ゐいう墓とあだ死おうちれだ教十の袴こもくおり出なとおとぐそうーにくてうりけゐうのちゐんの墓奥ゐうしとう

## 悪魔を感ずる武士の名札

今はむかし丹波のくにや津よりめんや若き男と云ふ人あり
生まれついての実気もの人ふそひうど人とあがれこと万
ず正路よくせ一がありて家業おこたりめんの賞出し
春永の村よりおよそ家が麦ひる男六七人ともころせぬ
ころせと仰うはちごと立つてよく若き男とおもひて
見て行すやんとちよもおもひおれば小狐の
まへにめくりめもく若き男(ごく)
入てあるおつさまをめてみくさまをありくかまよ
打擲さまさまんさまをぐ一ものくいのちおれるまハ
ちひさる罪そう一枚一おとんにやうけさまて悪まおも

いさされもうしいひ安せてゆがすべしらくこゆうしたまいまとしおりひつくのもの哥こ農民どもにくこるさまつびくれ人れば安りくそこ狐め狐たぐくまいこの毛程のそこ安れかどほくが笑ーれとおがさんけしれ召へぶれば着へ衣へ狐らびて先りりてゆうしけ
ー便へ行ぞちんじゃさん待ちれしまづかまべみくさ狐めうちころしばうむんとおりへどもこうのそこもをぶーがと文で負申をよと侍差を人のえうけあれひ着へ衣へ狐ーぬろしれそひて狐ろ出ーサアうけ取てやされと狐がいぶれ召へ町も

よろこびゃべ〳〵さるひもて八人もうくをもちてゆきたへ
ちごくの場所(ばしょ)のやくさぐの出人へお用(よう)のへ拙者(せっしゃ)が
大勢(おおぜい)ふうさをたま人ともうごぞ門(もん)をもぐくま
じげく人ものお松おりまもうひたねさのお松おり人
もすこしもちごひのあべうごさぞうろ可愛(かわい)や
し菓子(かし)をとそそてうでさをる花魁(おいらん)へ小猫(こねこ)よかう〳〵
ずく村(むら)へ歩(ある)くまろのお松仕事(しごと)する為(ため)へころされさ〳〵うんと
をかる銭(ぜに)もなのびよまもお住(すま)へなちかい一里(いちり)程(ほど)ゆく
学(がく)いんをよしもるせびそうひ尾(お)とうりてまげ
うてゆく花魁(おいらん)へおちうくあれ出(だ)らんうされまも


ごまうれて出(だ)ておとうがめてまやかがさんかしこやとひ
やうむうみたく所人へ三十ばうの牡士肉(おとこにく)をとうへて
女中(じょちゅう)紙(かみ)うひ家僕(けらい)よりもせ〳〵食(しょく)給(きゅう)八聖(ひじり)あそびの
かへとげ花魁(おいらん)へちうづ死(しに)をふ〳〵ぐやは月(つき)へうり称(しょう)
をいぐ死行(しにゆく)のへあて一番(いちばん)のみぞいぬ〳〵さうと同(どう)かくまべ
花魁(おいらん)へうちわうひうをかれ村(むら)へうてまたかひ百姓(ひゃくしょう)民(たみ)
どもうをあいまをお二病(にびょう)さうてその西(にし)へまうしふ魚(うお)一
まいりの包(つつみ)をメ又一おり(いち)とえたび今(いま)あこうんまり
ふご〳〵てゆくんとぞんぢる西(にし)とかうれべ士(さむらい)をかうしておど
ろきへかるれ仁(じん)ちくまうんどもそろあれべさぞろや

山形中よひ

一絵本童教訓草　　全部三冊

右の書ハ子の生れ出ると斉しく教一ツ其一ツ十五六才ゆゑで一年くのおしへる迄よろしく年におゐて厳と子をそだてる事ハ勿論の事なれバ子供ながらして悪事に染ざる様教ゆる事

一女教訓古今集　　全部一冊

右の書ハ女子の躾方教訓百ケ条并古今集之雅へて女のわらへ歌ともを初すべて女のたしなみとなるべきものを

絵本野山の声　教訓を図絵にしてあそびながら女のまれ名を覚るなり　二冊　絵本寛政市　上

絵本鑑　おりまきものがたりのるく　二冊　絵本婚姻　上ふ用　二冊

繪本用文　日上　一冊　絵本北枕　日上　一冊　絵本貴女　二冊

東國名勝志　東よう松まつその向名不古往の絵本　五冊　絵本元師傳　絵本　三冊

本朝画林　墨絵のよし　三冊　絵本武将傳　武士絵名ゐの絵本　三冊

絵本孫詠　三冊　絵本貴女拾　二冊　繪本万歳ふ　二冊

繪本武者寶　三冊　絵本春日　一冊　絵本花月遊　三冊

絵本菊水　酒の功有百人一そく　二冊　絵本人物誌　故事ほとあらひ　一冊

名数和歌選　わかの一そくようこそといふせんを歌数をひろひ絵本とす　三冊　いろは絵本　四冊

絵本姫文庫　源氏和哥の威徳を絵　五冊　百将傳　林道春著へ　一冊

繪本名將文武談 五冊 繪本武者大全 名和武者ともに 六冊
鯨誌 くぢらの事をことこまかしるせる一冊 菊品 菊の種類を多く図す 二冊
女訓書大全 百人一首古今のに倣ひ女の徳をのべうんぬん をしるしてあそぶべきわざの事ともしるす 五冊
絵合百人一首紅葉香 うんぬんをみるべくかるたにしてあそぶべき事をのす
女文苑菜花 ちしきを要文章ぬきあつめて見やすくそのうら女のてうほうともしるしあるべきの七文章の大全とす
花の枝折 女の訓蒙をみぢかくやさしくかきしるしてをかしき事ども多くしるす 五冊

明和七庚寅年正月吉日

大坂書肆 心齋橋南四丁目 吉文字屋市兵衛
江戸書林 日本橋南四丁目 同 次郎兵衛

定榮堂藏板目錄 大坂心齋橋南四丁目 吉文字屋市兵衛 江戸日本橋南三丁目 同 次郎兵衛

雲水閑雜纂 漆井抱一の俳諧紙ほかなんぢ人の発句を多く絵入 全部五冊
和漢人物故事 漢和の人物をあつめ絵入 四冊
武士形氣 武士の気質心いき事を絵入 五冊
續可笑記 絵入 五冊
滑稽雅畫 狩野派の画風をもつて滑稽の画を絵入 四冊
岩藥踊 男色の咄一ぱいの本二冊
通俗金翹傳 唐の小説を和らげ全部八冊
西播怪談實記 そうま一国の怪しき咄を絵入 九冊
新撰百物語 近代おやしき咄を絵入 五冊
和漢珍話 絵入 五冊
繪本太閤記 絵入 五冊
浮世物語 絵入 五冊
赤染衛門後撰 絵入 五冊
淺井物語 江州淺井三代の間軍を記す全部六冊
狂言十代万歳 絵入 五冊
武家拾要記 武家の故実おもしろく 五冊
武人訓 武士の心掛ける事を集む 五冊